

2022年度(令和4年度)学校運営評価

【総評】

2022年度の取り組みの主要事項及び成果について述べる。「Ⅰ. 教育理念・教育目的・教育目標」「Ⅱ. 教育課程経営」においては、新カリキュラムが2022年度入学生から開始され、新旧カリキュラムが混在する形で進行したが混乱は無かった。コロナ禍が続き学校行事の縮小は続いたが、年度末には感染対策を講じつつ保護者と少数の来賓を招いた式典を実施できた。「Ⅲ. 教育活動及び評価」においては、コロナ禍における安全な学修環境確保の方策を前年度から引き続き実施した。軽微な有症状者のための遠隔授業のための別室を3階研究室及び体育館講師室とし、また出席停止者に向けた録画講義配信システムを整備した。演習室や化学実習室にもインターネットを敷設したことで、小グループ演習及び実習施設からの遠隔指導もより容易になった。「Ⅳ. 経営・管理過程」においては、法人の内部監査を受審し、当校の運営規定及び委員会規定について点検を受け必要事項について改訂した。学生寮エントランス改修、教職員駐車場整備、通宅生用サイクルポート設置、視聴覚室設備更新を行った。コロナ蔓延期にあたり、感染防止を徹底し、ワクチン接種状況や学生個々の健康状態把握に務めた。「Ⅴ. 入学」においては、高校の進路ガイダンスに主にオンラインで参加し、また当校の学校説明会は事前予約・定員制で年4日開催した。少子化の影響を受け、出願者数が減少していることから、今後の受験生確保が課題である。「Ⅵ. 卒業・就業・進学」においては、国家試験合格率100%、助産師学校進学3名、養護教諭課程進学1名であった。「Ⅶ. 地域社会／国際交流」においては、コロナ禍のため地域との交流はなく、また授業以外に国際交流に関わる機会がなかった。「Ⅷ. 研究」において、教員はICTを活用した授業設計、臨床判断に結び付く試験問題作成、新現行カリキュラムの運営等の複数の研修に参加した。

今後の課題として、1. 新カリキュラムの新設科目について常勤・非常勤講師と共に授業内容を充実させ練習すること、2. 教育活動では、引き続きアクティブラーニング及びICT環境整備の推進、3. コロナ禍における臨地実習方法の工夫に関する臨床側との相談、4. 広報については学校ホームページの活用、5. 卒業時到達状況については、国家試験合格率の100%継続、及び卒業生の就業状況の把握と職場適応に向けた就職先医療機関との連携強化、6. 受験生確保が確認された。

【集計結果】

「カテゴリーごとの取り組みは優れている 又は 前年度の課題が解決された」について、Ⅰ～Ⅷの各カテゴリーの評価項目ごとに3段階評価を行いカテゴリーの平均値を算出した。

〈評価尺度〉 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

評価には教職員24名が参加した。

No.	カテゴリー	下位項目数	評価項目数	平均値
Ⅰ	教育理念・教育目的・教育目標	2	2	3.0
Ⅱ	教育課程経営	6	12	2.9
Ⅲ	教育活動・評価	8	8	2.9
Ⅳ	経営・管理過程	11	23	3.0
Ⅴ	入学	3	5	2.9
Ⅵ	卒業・就業・進学	4	4	2.9
Ⅶ	地域社会／国際交流	2	2	2.7
Ⅷ	研究	2	4	2.9

2022年度学校運営評価

